

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	ケーススタディー演習		
英文授業科目名	Case Study		
開講年度	2005年度	開講年次	3年次
開講学期	5、6学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	中田、田中(勝)、兼子、中嶋(信)、福田(豊)、久野、児玉、永井、チュウ		
居室	西2-425(中田)		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>演習は、原則として、1～2年次でなされた人間コミュニケーション学科の学科目の講義内容を踏まえて行う。人間コミュニケーション学科として必要最小限の実験内容を準備している。演習の目的は抽象的な講義内容を具現化し、講義での学習内容の一層の理解を助けると共に、講義で学習できなかった事柄を補完し、体感的に習う機会も兼ねている。演習内容は合意形成、メディア、心理、電気基礎、信号と画像の処理、環境である。演習を通して、種々の仕事を行うに当たっての段取、手法、データの収集法、解析と分析法、報告書の書きかたを学ぶことも目的のひとつである。</p> <p>演習内容は合意形成、メディア、心理、電気基礎、信号と画像の処理、環境である。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
<p>心理、メディア、数学、物理(実験を含む)、化学(実験を含む)、電気関係科目。特に、物理と化学関係の実験を必ず履修し、実験方法、結果の取扱い、考察を含めたレポートの書き方を修得したものととして演習を開始するので留意すること。</p>

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
<p>使用しない。予め、演習(実験)指導書を配布する。レポートと感想文の違いを理解するために、レポートの書き方について本を読んでおくこと。</p>

電気通信大学 平成17年度シラバス

【授業内容とその進め方】

5 学期（4 テーマで行う）（収容人数は48名）

演習ガイダンス 1 日間（前期の最初の演習時間に実施）

合意形成の展開と収束 3 日間（12名程度）

認知実験 3 日間（12名程度）

メディア分析実験 3 日間（12名程度）

電気基礎 3 日間（12名程度）

試験又は追実験 1 日間

6 学期（3 テーマで行う）（収容人数は45名程度）

メディア制作実験 4 日間（15名程度）

信号と画像の処理 4 日間（15名程度）

環境計測実験 4 日間（15名程度）

試験又は追実験 1 日間

学生名と演習項目の対応表等はガイダンス時に配布し、説明を行なう。欠席しない こと。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

成績判定は5 学期と6 学期の演習を通して行なう。成績評価の内容は、一日（授業 時間で2 駒に相当）の演習について

平常点（遅刻、早退、演習態度等）として4 点

レポート点として4 点

レポート提出の早遅として2 点の計10 点とする

演習の総点数は10 点掛ける演習日数とする。全てのレポートを提出し、総点数の6 割以上を得点していれば単位が得られる。総点数が6 割以上であっても、レポート 未提出分があれば単位を保留（成績報告書では欠となる）し、翌年度に未提出分の演 習を行ないレポートを提出する。全てのレポートを提出していても総点数が6 割未満 の場合は翌年度に全ての演習を行ない再度レポートを提出することに

電気通信大学 平成17年度シラバス

なる。なお、単 位取得者の中で、不可、可、良、優の判定基準は

不可は総点数で60%未満

可は 60-69%

良は 70-79%

優は 80-89%

秀は 90%以上

とする。

【オフィスアワー：授業相談】

演習（実験）指導員により異なるので、予め確認して相談すること。

【学生へのメッセージ】

人間コミュニケーション学演習は幅広い分野を網羅しているが、1-2年次の授業 と実験を真面目に行なうことが肝心である。

【その他】

上の担当者欄に書ききれないのでここに書きます。

前期：久野、坂本、福田、中田、永井、中嶋、本村*、青木*、仙北谷*

後期：児玉、田中、チュウ、中田、永井、本村*、青木*、仙北谷*

*は技術部職員